

病害虫発生予察特殊報第2号

平成16年2月6日
三重県病害虫防除所

本県において、キュウリ黄化えそ病の発生が初めて確認されたので特殊報として発表します。

- 1 病害名 : メロン黄化えそウイルス (MYSV) によるキュウリ黄化えそ病
- 2 発生確認植物名 : キュウリ
- 3 発生確認地域 : 度会郡御菌村
- 4 発生経過
 - (1) 度会郡御菌村の2戸のキュウリ栽培農家において、本県ではこれまでに見られなかったキュウリ病害が発生し、三重県科学技術振興センター農業研究部によるRT-PCR法の判定の結果、メロン黄化えそウイルスによるキュウリ黄化えそ病と同定された。本ウイルスによる病害の確認は、本県では初めてである。
 - (2) 病原ウイルスであるメロン黄化えそウイルスは静岡県のメロンで発見され、1992年にメロン黄化えそ病として発表された。その後1996年に高知県のメロンとキュウリで発病し、キュウリではキュウリ黄化えそ病と命名された。これまでキュウリ黄化えそ病は、愛媛県 (2000年)、群馬県 (2002年)、神奈川県 (2003年)、福岡県 (2003年) で報告されている。
- 5 キュウリ黄化えそ病について
 - (1) キュウリの病徴と被害
未展開葉の葉脈黄化に始まり、展開葉ではモザイク、葉脈黄化、退緑斑点など様々な症状を示す。全身的な生育抑制を起こして、収量が低下し、ひどい場合は枯死する。果実にはほとんど病徴がない。
 - (2) 伝染
アザミウマ類 (特にミナミキイロアザミウマ) の吸汁によって媒介される。汁液感染は弱く、土壌伝染、種子伝染はしない。
 - (3) メロン黄化えそウイルスの寄主植物
ウリ科 (トウガン、スイカ、メロン、キュウリ、ユウガオ、ヘチマ、ニガウリ)、ナス科 (ペチュニア)、アカザ科 (ホウレンソウ)、ツルナ科 (ツルナ)、ゴマ科 (ゴマ)、ゴマノハグサ科 (キンギョソウ、トレニア) が知られている。
- 6 防除について
 - (1) アザミウマ類 (特にミナミキイロアザミウマ) の防除対策を行う。
 - (2) アザミウマ類の分散を防ぐため、感染株 (苗)、発病株を移動せず、施設内で確実に処分する。